

第 4 回策定委員会の論点整理

	委員からの主な意見等	考え方等
施設規模 事業費	病床 1 床あたり 70㎡という規模は、広いのではないか。	同規模病院の整備費の実績の平均を参考に、算出しているものである。
	整備費は、同規模病院と同程度の数値で算出したのか。	
	医療機器等の事業費は上限と考えていいのか。今後、設計での見直しの段階で、変更の余地があるのか。	現病院の現有機器を基に、移設するもの、更新するもの、新規購入するもの、に区分し上限として算出したもの。今後、設計の中で改めて、費用対効果等を検討の上、決定していくこととなる。
	もう少し具体的な細かい検討資料が欲しいと思う。この 58 億 7 千万円で納得してもらうのは、無理があるのではないか。	一般的な公共施設等の基本計画の場合、概算額としての整備費しか出ないのが通常である。現時点でこれ以上細かい積算をするのは、困難であることを御理解いただきたい。
	自然及び再生エネルギーの活用を推進するとあるが、その費用も、今後、計上されるのか。また、具体的に、どのような再生エネルギー、自然エネルギーの利活用を考えているのか。	新病院の基本コンセプトとして、盛り込んでいるものであり、具体的には、設計の段階で、業者等の提案に基づき、費用対効果等を検討の上、決定していくこととなる。
	50 億円を超える整備費について、人口も減少する中で、金額が大きい、医師会病院の運営から、これだけの規模が必要で、それを維持して、30 年間で償還をするというのは、経営者である医師会としての考え方はどうなのか。病院は必要なのか。	医師会で、この規模の病院を作ることは出来ないが、医療機能として、両町で入院できる施設が必要であれば、この規模の病院が必要と考えている。
医師会としては 132 床が、理想の形であるということか。	医師会としても、一番議論になった部分であるが、132 床なければ、病院として機能しないと結論になった。	
財 源	病院建設に関して、過疎債の利用を考えているということだが、これはほぼ確定で利用できるのか。	関係機関を通じ調整をしているところであるが、概ね、問題なく利用できると思っている。

	委員からの主な意見等	考え方等
住 民 等 明 説	建物の規模が小さくなって、事業費が多少は抑えられると思っていたのが、58億7千万円と大きな金額になったということ議会・住民へ説明するのが難しい。	これまでの委員会における議論の中で、病院の機能・需要等を積み上げた結果を基に積算したものであり、この議論の内容を丁寧に説明して、理解をいただくことが必要と考えている。
	30年後の人口を考えると、償還が本当にできるのか。純粋に両町の負担額が、この程度という数字があれば、住民も理解しやすいのではないかと。	過疎債は、病院が存続する間の返済のうち7割を国が負担するため、両町では実質残りの3割を30年で返済することになるもの。そのような過疎債の制度についても、丁寧に説明をした資料により周知したいと考えている。
	事業費と併せて、財源である過疎債についての説明をしないと、住民の方々の反発が非常に大きいと考える。	